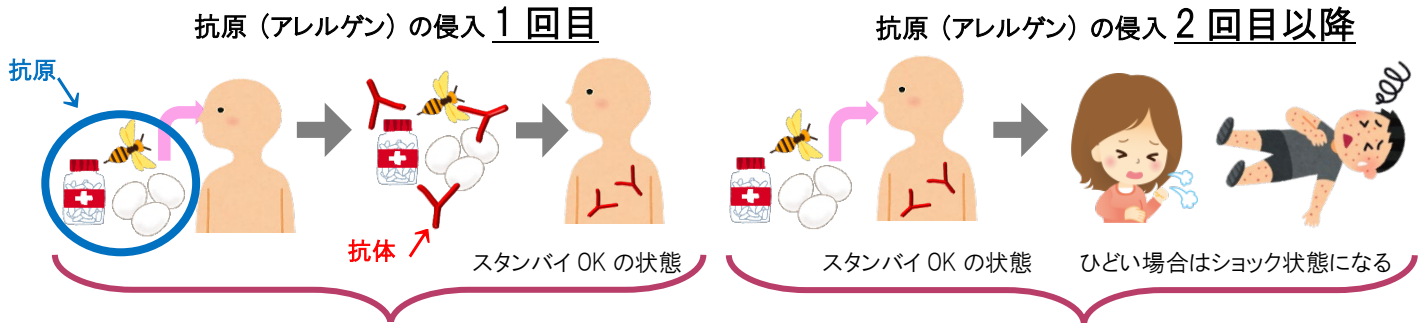




## 免疫のお話『アナフィラキシー』編

11 月号では、体が病原体(ウイルスなど)を“抗原”と認識することについて説明しました。今月号では、体が誤って食物、ハチ毒、医薬品などを“抗原(アレルゲン)”と認識した後、再び抗原が体内に侵入したときに起こる可能性のあるアナフィラキシー(5~30 分で全身に症状が出る強いアレルギー反応)について説明します。

### アナフィラキシーとは



スタンバイ OK の状態となる

スタンバイ OK の状態になると、アナフィラキシーが起こりやすくなる

アレルギーを起こす原因物質の抗原(アレルゲン)を初めて食べたり触れた時、いきなりアナフィラキシーが起こることはまれで、たいていは軽いアレルギー反応のみです。しかし体は、アナフィラキシーがいつでも起こってしまう準備段階、『スタンバイ OK』の状態(これを専門用語で感作といいます)になります。これにより、アナフィラキシーが起こりやすくなってしまいます。ハチに刺された場合、1回目よりも2回目以降の方が危ないと言われているのは、そのためです。アナフィラキシーが重度の場合、ショック状態(全身の臓器・組織への血流が悪くなる生命危機の状態)になることもあります。

アナフィラキシーが重度の場合、放置すると死に至ることがあります。そのため、医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に遅くし、ショック状態になることを防ぐための自己注射薬「エピペン」が必要になります。

「エピペン」は周囲の人が本人に注射してあげてもかまいません。 体中に赤み・ぶつぶつが出る、くしゃみや強い咳が出る、ゼーゼーする呼吸、目や口が腫れる、腹痛、吐く、顔が青白い、立ってられないなどの症状が複数同時に現れたら重度なので、迷わず「エピペン」を使用し、その後すぐに救急車を呼びましょう。

## エピペンの使い方

ズボンの上からでも OK

### STEP1 準備

携帯用ケースのカバーキャップを指で開け、エピペンを取り出します。オレンジ色のニードルカバーを下に向けて、エピペンの真ん中を利き手で持ち、もう片方の手で青色の安全キャップを外し、ロックを解除します。



### STEP2 注射

エピペンを太ももの前外側に垂直になるようにし、オレンジ色のニードルカバーの先端を「カチッ」と音がするまで強く押し付けたまま数秒待ちます。エピペンを太ももから抜き取ります。



### STEP3 確認

注射後、オレンジ色のニードルカバーが伸びているかどうか確認します。ニードルカバーが伸びていれば注射は完了です(針はニードルカバー内にあります)。



### STEP4 片づけ

使用済みのエピペンはオレンジ色のニードルカバー側から携帯用ケースに戻します。



参考：ファイザー株式会社「エピペンガイドブック」

◎ 大切な人を助けられるように、ぜひエピペンの使い方を知ってください！ 詳しく知りたい人は出張相談会に聞きに来てね ◎

《 出張相談会 保健室に学校薬剤師が来ます 》  
ドラッグレター、医薬品や健康などについて、質問・相談がある人は保健室まで！  
12月11日 16時30分~17時30分

作成・発行元 北陸大学薬学部 准教授(学校薬剤師) 大柳賀津夫  
北陸大学薬学部薬学科5年生 喜友名侑舞・仲田里穂